



CONTENTS
Vol.54

MODE
OPTIQUE

9 気になる眼鏡情報 LOVE GLASSES

14 女優小林聡美さんの私物眼鏡
本を読む女

26 リンドバーグ いつもの眼鏡

30 アートな眼鏡

33 **特集** 前髪とめがね



34 前髪と眼鏡のバランスの取り方

36 4タイプの眼鏡、どんな髪型が似合う？

38 同じ眼鏡で前髪を変えてみると……

40 眼鏡とヘアメイクのイベント

42 前髪をアップにしてデザインを最大限楽しむ！

50 アイウェアをもっと楽しむ

54 25周年 進化し続けるオルグリーン

56 トニーセイムのアーティストコラボ眼鏡

58 普段はなかなか話せない、親子のホンネを聞きちゃいました **親子対談**

62 **pick up BRAND**

64 アーレムデザイナー、アーレム・マナイ・プラットさん来日インタビュー

Cover Design

Base

Cover Photo

Kazuhiro Fujita

©WORLD PHOTO PRESS

2023 (禁・無断転載)

令和5年1月20日発行

●今号で掲載している眼鏡フレーム・サングラスに関する問い合わせは、126ページの【メーカー&ショップ問い合わせ先リスト】をご覧ください。

●掲載されている商品の価格は、2022年11月現在の調べによるものです。また基本的に消費税(10%)を含んだ税込み価格の表示です。



65 **SILMO2022**

66 **SILMO d'Or 2022**

68 **ブランドロングインタビュー第1弾**

マックス ピティオン/マイキータ/ファース ア ファース
プロデザイン デンマーク/アン・バレタイン/レスカルネティエ
ラ・ループ/ラザール・スタジオ

74 JAPAN BRAND

76 **ブランドロングインタビュー第2弾**

フレデリック・ボーソレイユ/タリアン/ルーカス ド スタール
エックスアイティー/ジャックデュラン/オルグリーン

79 ドイツブランド多数 3Dプリンタ眼鏡のいま

80 バイヤーに聞きました。久々のシルモはどうでしたか?



81 **日本の展示会**

82 iOFT

96 日本メガネ大賞2023

100 LIGHT BOX EYEWEAR COLLECTION

102 INGOT

104 Kojimachi Optical Fair

113 **新作紹介 JUST WEAR IT!**

122 shop ハバナミュージアムの秘密基地

124 shop Continuer 20周年アニバーサリー

126 問い合わせリスト

127 バックナンバー



リンドバーグ LINDBERG いつもの眼鏡

シンプルでモダン。そして世界一を誇る
軽量眼鏡として君臨するリンドバーグ。
カラーやデザインによってどんなスタイルにも
合う眼鏡は一度掛けたら手放せなくなる。
自分に合う最強の1本を見つけてほしい。

Photo/黒坂明美 Akemi Kurosaka
Hair&Make-up/鈴木威久 Takehisa Suzuki
Styling/吉田佳世 Kayo Yoshida
Model/シエル Ciel
Text/モード・オブティーク編集部 MODE OPTIQUE



超薄型の最新チタンフレーム、シタンニウム。
およそ3gという驚く軽さを実現し、洗練された
印象に。眼鏡 [LINDBERG thintanium, 5531
Col. P10] 価格10万3000円@リンドバーグ、シャ
ツ価格4万6200円、パンツ価格2万8600円@とも
にサカス ピーアール/キミー 03-6447-2762。
中に着たTシャツ/スタイリスト私物



こちらもシタンニウムの新型。優し
いラウンド型でミニマリズムを表現。
男女問わず掛けやすいモデルだ。
眼鏡 [LINDBERG thintanium, 5528
Col. PU9] 価格万円11万3000円
@リンドバーグ



薄い複合材のフロントと軽いチタン製テン
プルという、LINDBERGのシグネチャー的
な要素により構成されたn.o.w. titanium
シリーズ。透明感のあるフロントが特徴的。
眼鏡 [[LINDBERGn.o.w. titanium, 6627
Col. C02-PU9] 価格7万7000円@リンド
バーグ、パンツ価格7万1500円@サカス ピー
アール/セブンバイ セブン 03-6447-2762。
ガウン、中に着たTシャツ/スタイリスト私物

MYKITA マイキータ

2022年春、「マイキータ」は分子リサイクル技術で開発された「アセテートリニュー」のみを製造に使用し、従来のアセテートからの完全移行を行なうことを発表した。このニュースは世界中を驚かせ、プレスには現物をひと目見ようと、多くのバイヤーの姿が。クリエイティブディレクターのMoritz Krueger氏に狙いを聞いた。「持続可能な社会への課題は、私たちの責任であり、自分たちの子どもの未来を守ることもつながります。プロダクトをつくることは大切ですが、アセテートは廃棄物が多いため、ずっと以前からサステナブルな素材に移行した

と考えていました」
素材を共同開発したのはアメリカの特殊素材メーカー「Eastman」だ。「アセテートリニュー」は、持続可能な方法で調達された木材パルプ60%と、分子リサイクル技術で製造された認証リサイクル材40%からつくられている。分子リサイクル技術とは、眼鏡製造などで生まれたリサイクル困難なプラスチック廃棄物を構成成分にまで分解し、リサイクル材として生まれ変わらせるというもの。廃棄するアセテートもまた「アセテートリニュー」の原材料に再利用できる仕組みだ。さらに従来のアセテートと同様の特性があり、見た目や質感は同じで、温めて曲げることもできる。ところで、一度に全部を移行するのは大変だったのでは？

「少しずつ変えるよりも、一気にすべてを変えた方が、物事全体がスムーズに進むと考えました。これまで「マイキータ」はファッション業界と善字をベースにコラボレーションを行ってきましたが、今回はテクノロジーの分野とのコラボレーションです」
では今後「マイキータ」がサステナブルな分野で業界のトッププレイヤーになるというビジョンは？
「フー。そういうことではないんです。もともとサステナビリティーに興味があり、いまは製造で生まれるステンドレスの廃材も89%リサイクルしています。トップランナーになるためじゃなくて、未来のために必要なことだからはじめたのです。サステナブル素材への完全移行が先例となり、業界全体が同じ方向へ進むきっかけになれると信じています」

「新しいことに取り組んで発展し、サステナブルな未来をつくりたい」とMoritz氏。



サステナブル素材への完全移行の真意とは？



クリエイティブディレクター Moritz Krueger



多くのバイヤーが訪れる「マイキータ」のブース。リラックスして商談が進む。



「マイキータ」ではCSR(企業の社会的責任)に力を入れており、業界内での注目度は高い。

ここに並んだフレームはすべて「アセテートリニュー」を使用した、環境に優しい眼鏡だ。

MAX PITTION マックス ピティオン



創業者の息子 Bernard Pittion クリエイティブディレクター Tommy Ogara

スピリッツを継承してシルモで復刻デビュー

最初に紹介したいのが、再復刻してシルモが初お披露目となった「マックスピティオン」だ。1921年にフランスの眼鏡産地ジュリアにある小さな町、オヨナで眼鏡工場としてスタートし、1940〜70年代のフレンチヴィンテージの歴史を作った名門である。2013年に復刻するも、惜しまれつつも生産終了。2022年に再始動した。復刻を実現させたクリエイティブディレクターのTommy Ogara氏と、創業者の息子Bernard Pittion氏に話を聞いた。ふたりは古くから親交があり、ブランドの復活を望んできたという。

「マックスピティオン」の歴史を知るために、オヨナへ行き、古い工場や昔の図面などを見せてもらいました。デザインするのではなく、プロダクトや図面からバリエーションニングを行なうため、スピリッツが非常に大事なんです。オヨナの大自然や歴史ある工場をこの目で見て、ピティオン・ファミリーとゆったりとした時間を過ごして、スピリッツを継承する。ブランドのリアル・ストーリーを継承することが復刻の鍵でした」Tommy氏。



ブースには「のれん」を活用。日本とフランスの伝統をつなぐTommy氏の粋なアイデアだ。



「マックスピティオン」のほかに、「ジュリアスタートオプティカル」の新作も発表された。



ボリューム満点で光沢が美しいクラウンパントなど、期待を裏切らない仕上がり。



ラフォン

lafont

ダイナミックなブルーと豊かな柄のマリアージュ

空や海の豊かな色を思わせる鮮烈なブルーのインパクト。パリの『ラフォン』から届いた最新コレクションをピックアップ。

Photo/青木健格 Takenori Aoki (WPP)
Text/小堀真子 Mako Kobori

「MAGRITTE Col.3189」

品のあるボスリントンは、鮮烈なブルーを使った生地のカラーリングが絶妙。マットとクリアが混在した立体的なモザイクが、ブルーの存在感を引き立たせる。

価格3万9600円



「MONACO Col.3195E」

優雅なフォックス調のサングラスは、地中海に面したモナコの華やかな景色を想起させる生地使い。トレンド感のある肉厚で幅広のテンプルが、横顔をドラマティックに彩る。

価格4万6200円



「MIX-MATCH Col.3191」

上半分にくすみブルーのクリアな質感、下半分は艶めくヴィヴィッドなブルーを配置。目尻におなじみのドットデザインで華やかさを添えた、質感豊かなフォックスフレーム。

価格3万9600円



「MINORQUE Col.7730」

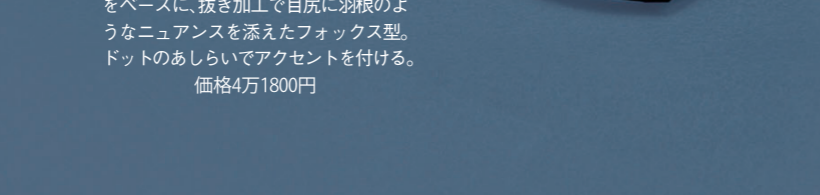
幅広のメタルに、レースのような繊細な抜き加工。軽やかさと存在感を両立させたラウンドフレーム。リムを囲む小さな赤いドット柄で、表情がパッと華やぐ。

価格4万6200円

「MAUD Col.3745」

マットな光沢感を放つネイビーのメタルをベースに、抜き加工で目尻に羽根のようなニュアンスを添えたフォックス型。ドットのあしらいでアクセントを付ける。

価格4万1800円



2023年春夏にかけて、国内外の多くのアイウェアブランドが提案しているブルーのカラーリング。パリジェンヌに愛される「ラフォン」の最新コレクションでも、個性豊かなブルーを取り入れたデザインが目を引いた。今季のイメージビジュアルにフィチャーされているのも、鮮烈なロイヤルブルー。

2023年春夏にかけて、国内外の多くのアイウェアブランドが提案しているブルーのカラーリング。パリジェンヌに愛される「ラフォン」の最新コレクションでも、個性豊かなブルーを取り入れたデザインが目を引いた。今季のイメージビジュアルにフィチャーされているのも、鮮烈なロイヤルブルー。

は、ミックスカラーが絶妙なハイモニーを奏でる大ぶりで肉厚なサングラスなど、生地そのものの美しさを活かしたクラシカルなフォルムが新鮮。一方のメタルは抜き加工によってレースのような幾何学パターンを作り出し、華やかな装いを楽しめる「ラフォン」らしいデザインが揃っている。



「BOZ」

【ボズ】

目尻にポイント。同じマテリアルを使用しつつ、色やパターンの違う生地を組み合わせ、絶妙なバランス感をもたらしている。

(上)「ONDINE Col.2510」価格4万8400円、
(下)「OCTO Col.2540」価格5万2800円

©J.F.REY JAPAN



「Mixage Basic」

【ミクサーージュ ベーシック】

コンビネーションモデルの新型は、コロンとした丸みのあるフロントシェイプが特徴的。素材のミックス感がほどよいアクセントになっている。メタルフロントの新作は、従来型にはなかったシャープですっきりとしたシェイプが登場した。

(上)「MXB6006 Col.3」、
(下)「MXB6005 Col.2」

価格各2万8600円 ©ヤブシタ



「NEWYOKER」

【ニューヨーカー】

フロントには18金、長モダンには本べっ甲を採用し、インテリジェンスな佇まいのラウンドを風格のある佇まいに。しっとりした艶を放つべっ甲は耳当たりもソフトで、極上の掛け心地をもたらす。

「N6233」価格オープン(受注生産)

©マルマンオプティカル



iOFT EYEWEAR EXHIBITION

過去2年間のコロナ禍を乗り越え、欧米、アジアなど各国のデザイナーたちが久々に来日を果たした今回のiOFT。日本メガネ大賞のカテゴリー分けもシンプルになり、いよいよ新時代へのシフトが切られた。

Photo/青木健格 Takenori Aoki (WPP)
Text/伊藤美玲 Mirei Ito、小堀真子 Mako Kobori

「LASHISA」

【ラシサ】

ハグ・オザワが20~30代女性に放つ、大人の“あざとかわいさ”を狙った新ブランド。伏し目や上目遣いの際、丁番のカラフルな七宝がチラリとアビールする。

(上)「LS-004 Col.4」、(下)「LS-005 Col.1」

価格各1万3200円 ©ハグ・オザワ



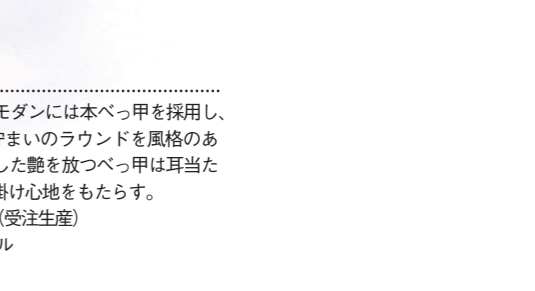
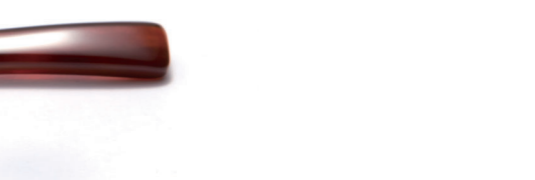
「COCO SONG」

【ココソング】

二重アセテートにシルクを敷き、上から羽やドライフラワーなどを置いて、薄さ0.5mmのクリアアセテートで挟み込む。イタリアのセンスと東洋美が織りなすラグジュアリーなフレームは今季も圧倒的な存在感。

(上)「SHANTY Col.3」価格10万7800円、
(下)「JUST JULIET Col.4」価格10万7800円

©イトオプティク



Published by
WORLD PHOTO PRESS
Publisher of Mono magazine,
World Wristwatch, Figure Oh,
Mode Optique, and World Mook series.

Head Office Location
Az-Asagaya, 1-12-1 Asagayaminami,
Suginami-ku, Tokyo 166-0004 Japan

Editorial Department
Tel: 03 (6383) 2331
Fax: 03 (6383) 2583

Sales Department
Tel: 03 (6383) 2390
Fax: 03 (6383) 2574

Publisher
Kesaharu Imai

Editor
Kaoruko Matsuzaki

Staff Photographer
Tomoaki Tsuruda
Takenori Aoki

Designer
BASE

Advertising Director
Kazuo Tsuboi

Production Director
Shunsuke Ogawa

Circulation Manager
Hiroshi Sasagawa

DTP
BASE
Nagi

Print
Dai Nippon Printing Co., Ltd

ワールドフォトプレスの出版物は
インターネットでもご注文いただけます。
monoshop.biz

ワールドフォトプレス総合サイト
「モノ・マガジンweb」
monomagazine.com

WORLD **M**OOK

ワールド・ムック1286

MODE OPTIQUE

モード・オプティーク

Vol.54



オルグリーン×ガムフラテシ×ミナ ヘルホネン
のトリプルコラボ眼鏡

令和5年1月20日発行

発行人 ● 今井今朝春

編集人 ● 松崎 薫子

発行所 ● 株式会社ワールドフォトプレス

〒166-0004 東京都杉並区阿佐谷南1-12-1 アズ阿佐ヶ谷

編集部 ● TEL 03(6383)2331 FAX 03(6383)2583

メディアビジネス部 ● 03(5929)7682 03(6304)9443

販売部 ● 03(6383)2390 03(6383)2574

印刷所 ● 大日本印刷株式会社

© WPP 2023(禁・無断転載)

● 造本には充分注意しておりますが、万一、落丁・乱本などの
不良品がありましたら小社[販売部]宛にお送りください。送
料小社負担にてお取り替えいたします。

● 本誌掲載記事の無断転載、複製、転写を禁じます。*本文中
の価格は消費税(10%)込みの総額表示です。*本誌に掲載さ
れている商品、価格、問い合わせ先は2022年11月現在の調べ
によるものです。